

## 道博協ニュース

発行 昭和51年10月1日  
 発行所 北海道博物館協会(事務局)  
 函館市青柳町17-1  
 市立函館博物館内  
 (0138)-23-5480

## 第5号

## 日本博物館協会表彰

## (その二)

昨年一〇月第一回日本博物館協会の表彰式が東京都において開催された。本道からは大飼哲夫、片岡新助、武内収太、米村喜男衛の四氏が表彰されました。今回は武内、米村両氏の横顔等紹介いたします。

## 網走市立郷土

## 博物館と私

米村 喜男衛

私は明治二五年の辰年生れで数え八五才であるから、博物館との関係といえば、考えようによっては五〇年とも、また七〇年ともいえる。青森県の田舎に生れ、小学校三年のとき何気なしに異様に尖った石片を拾ったが、それは大

昔、まだ世の中に鉄というもののない時代に、石を割って造った大切な道具で、刃物や鎗先のようなものだ。お前は実にいものを見つけたナア……と先生に賞められたのがキツカケとなり、その後は暇さえあれば畑や山裾を歩きまわり、石器や土器片を集めるようになった。

明治三十七年の春日露戦争が始まり、家庭の事情で高等小学校を二年で中退し、理髪店の小僧になって働くことになったが、土器、石器の収集は熱心で寸暇を惜しんで採集し、参考書を読んだ。併しそのために仕事は疎そかにすることなく人一倍努力し、酒も煙草も覚えず、同僚からは変人扱にされていた。

私は考古学の勉強を深くしようと一八才のとき、年時も

明いたので早速東京、本屋町といわれる神田小川町の理髪店に勤め、昼は懸命に働き、夜は本屋に参考書をあさっては、深更までも読み続けた。

その頃東大には人類学会や考古学会があり、年間一円二〇銭の会費を納めれば誰でも入会出来たので、直に会員になった。会では時々遺跡踏査会があるので、必らず参加した。大森貝塚や関東平野などで行なわれたが、これには大

学教授方も加わるので、お話を聞くことが出来て、実に有益であった。また東大の研究室におられる考古学の大家、その頃助教の鳥居龍蔵博士に師事できたことは、洵に幸運であった。

私は鳥居博士の著された「千島アイヌ」を読んで、北海道にもまだ原始的生活をしているアイヌ人の住んでいることを知り、その実態を見た

日高が北見に行かなければ駄目だと聞かされ、それなら一層のこと奥地に行こうと働いて旅費を造り、徴兵検査を済ませ、開通したばかりの汽車に乗り、三日がかりで大正二年九月の夕方網走についた。

翌朝早々探策に出た。すると、宿のすぐ裏、網走川の海に注ぐ処、北岸台地が川の流

れに崩されて二〇メートルもの急断崖となり、上方部に断面一メートルほどの厚さの貝殻層が二重にも三重にも重なっているのを見つけた。あまりの光景に息をのみ、棒切で恐る／＼貝殻層を崩してみると石器や土器片が出て来た。

しかも土器片は本州や函館方面のもの異なる。縄文系土器は赤褐色が多く、地肌に縄痕が見られるが、これは黒灰色で地肌に縄痕が見られず、滑らかである。口縁や肩部に動物や細い粘土紐などを貼りつけて模様を表わしている。

これは曾て東大の研究室でこのような土器があり、鳥居博士は、これは日本のものではない。大陸のものだと教えら

れたのによく似ている。丘の上に登れば一面の樹林密生地帯で、無数の堅穴が点在している。私はこの貝塚に圧倒され魅了されて、この地に住み、充分調べてみようと思心した。

それで形ばかりの小さな理髪店を開いた。朝は早々から貝塚へ、昼は理髪、夜は読書と研究に毎日明け暮れたが少しも苦勞と思わず、洵に愉しく、張り合ある生活であった。

併しやがて資料も増えて置き場に困るようになり、大正の中頃、当時町の中心といわれる処に小さいながらも二階建の家を造り、階下は職場に階上は遺物の展示室にしたところ、これを見に来る人たちが次第に増え、時には大学の教授方や研究者も訪ねてくるようになり、一寸とした博物館のようになつた。昭和の初頃お伴をつれた紳士の来訪があつた。名刺には鴻之舞住友鉱業所々長久保田定次とある。展示室へ案内すると丹念に見た後、「私は地質学の方であるが、この方も好きで、各地

のものもよく見ているが、この資料は他の地方のものは異色で大変貴重なものと思われるが、これを町中に置くのは万一の場合が懸念される」といとも心配顔である。私はふと、欧米では有名な博物館に殆ど実業家の厚意によつて造られていることを思い出して、「今を時めく金山王の鴻之舞さんあたりで何とかして頂けないものでしょうか。」といふと、いとも無難作に「ならなこともないでしよう。」とのこと。私はわが耳を疑う位ビツクリした。

さてそれからはどうして是を実現させるべきかで頭が一杯になつた。その頃は網走支庁管内を対象に郷土研究会を作っていたので、その会員である鴻之舞小学校会井校長を通して話を進めてみると、住友家では家訓として、たとえ少額でも個人には一切寄附しないとのこと、米村個人には全くできないという。それでは、これは博物館として教育に役立てるものであるか

ら、支庁にある社団法人北見教育会に私の資料全部約三千点を提供することとして接衝したところ、それならばよろしい。拾万円を出そうとのことである。大喜びで建物は鉄筋コンクリートにして、と種種構想を練っていたところ、

突然住友鉱山に鉱毒事件が起り計画は破算になつてしまつた。併し結局一万円ならば出してもよいとの連絡を受け、当時の浅村支庁長とも再三協議の上、最終的に三万円の予算を計上して木造二階建とし、経費の不足分は管内有志の協力を得、私も一部を負担して

昭和十一年十一月三日の佳辰に、皇太子殿下御降誕記念として芽出度く落成開館を見たのである。その名を「北見郷土館」としたが、北見教育会の解散に伴ない、昭和二十一年、網走市に建物、資料とも一切無償移管され、網走市立郷土博物館と改称。昭和三十六年に新館が市費により増築された。北見郷土館時代は時の支庁長岡田佐一氏が館長で私が主

事であつたが、市に移管されてから昭和四八年まで私が館長の職にあつた。その後愚息哲英が館長職を命ぜられ、私は名誉館長を委嘱されている。

近時地域教育の場として、郷土室的な施設も含めて各地に博物館が建設されていることは喜びに耐えない。博物館はそれ／＼の地域の文化の母胎とも推進力とも申すべく、地域教育のためには極めて大切な存在であり、それだけにその場にある者の責任もまた重大である。

私はこの博物館だけについて既に四〇年もの歳月を過したが、残念ながら理想にはほど遠い。まして広く博物館のために格別の貢献もないのに、博物館の皆様より度々の表彰を戴いていることは、洵に汗顔の至りであり、また身に余る光榮で、茲に衷心より厚く御礼を申し上げる次第である。

思うとき、まことに有難く、今後可能を限り、菘ながら博物館活動に努力することを申し上げてこの稿を終らせていただく。

## 尻切れ蜻蛉の人生

武内 収 太

陸軍少尉の私に臨時召集が来て、昭和十三年二月二日、月寒聯隊に入隊した。「貴官は即日單身北支に出発すべし」の命令で、その日東京に向つた。昭和八年国展彫刻部初入選以来連続五回入選の間に、よき同志となつた青年彫刻家達と、池袋の送別会で夜を徹した。翌日東京駅のホームで「漢代彫刻の破片でよいかから持って来い」とか「宋の青磁片を送れ」などの注文に送られて東京を出発した。変な将校は心細い一人旅をつゞけて、漸く任地を探してほつとした。数日して県公署に県史と県地図を要求し、発掘調査を準備した。当時の農民の出産は一日十銭が相場で助かつた。

敵情のない日は軽機関銃二個分隊に警戒させて調査を始め。ある日部隊本部から呼び出しがあつて出頭した。部隊

長F大佐は、「武内貴様は、戦争に来たのか、中国古美術を勉強に来たのか、どっちじゃ」と詰問された。私は「ハア両方でありませう」と返答した。

じいつと私を凝視して、「よし貴官には春夏秋冬北京に出張を命ずる。第一線部隊は常に警戒と戦斗が生命だぞ」とにつこり微笑された。その後時々北京故宮博物館行きで、世界的な名画や美術工芸品の研究が出来て、私の現地調査は控え目になったのである。

昭和十五年一月月寒隊付となり帰還し、一〇月三十一日に除隊した。部隊長は山東省に移駐された。昭和十六年に入つて、部隊長から「適任の椅子を用意したすぐ来い」の軍事電報が函館聯隊区司令部気付で二回来た。私を創設の山東省保安隊司令部教導官に推選されたのである。一六年四月濟南市に赴任し、八月

家内を呼び寄せた。昭和十九年八月までの毎日毎日が胸のふくれる勤務であつた。

北支に第一一七師團(弘部隊)が新設され、八月二〇日入隊の現地召集を受け、編成地開封市で遠間部隊第五中隊長を命ぜられた。

八月二五日決壊されて河流を変えた大黄河を渡河して、河南省新占領地区鄭州城の城内警備隊長拝命。昭和二〇年六月、師團の満州洮南移駐に伴い、部隊は太平川に移る。

七月四個中隊編成の部隊の長となり、大典安嶺を越えて、内蒙古西端アルシヤン地区に對ソ陣地の構築準備中の八月九日、ソ聯空軍と戦車の攻撃を受け、列車を得て二昼夜後

方の洮南に一日後退、師團は更に南滿鉄路の線に後退公主嶺に下車、武装解除となる。八月北滿黒河に輸送され、黒竜江の結氷を待つて一二月渡渉プログラムエクススクで貨車に乗り西方に走る。一ヶ月余、カスピ海クラスノボドスク収容所に入る。作業開始の

頃將校団は更にフェルガナーに移され農耕を志願させらる。武内は虚弱三級捕虜を若干名助手としてコーカンドに移り

全地に新築中の鉄道管理局の建築裝飾の制作を行う。二三年六月一三日待望の帰国列車に乗り、七月一日ナホトカ

着、二二日日本輸送船に迎えられる。二四日東舞鶴に上陸した。帰還列車は東京經由東北線で北上、青森県尻内駅で乗り込んで車内を探す東大生姿のせがれ良一と邂逅して感激の極であつた。最終夜の連絡

船後部甲板で語り明して、晩に浮ぶ函館山を仰いで、初めて涙が留めどなく流れた。ふるさととは母のふところ。連絡棧橋に迎えの妻も親族も皆泣いていた。

八月五日市役所に帰還車を提出しての帰り廊下で声をかけられ、その教育課にお邪魔して、住吉課長にお会いた。八月一日市立函館博物館条令が発効したが、建設の中心となる人をまだ得られなかつたが、今日は天祐である是非受

けて下さいとの思いがけぬお話を一両日お待ちを願つて、家族会議で賛成を得て、不東ながら御引き受けを翌日返答した。

市立函館博物館の出發は、由緒ある函館図書館に負ふところが大きかつた。先住民族館、水産館と館内の地質鉱物標本室が移管され、この資料

が原点であつた。博物館事務室等も二室提供され、先づ事務室作りに掃除道具、机椅子、本棚等の什器類の購入から恰好をつけ、さて根本は人材導

入である。元少尉でロシア帰りの石川現協会長が第一号で、第二号は考古の千代氏、第三号はロシア帰りの西田

氏、第四号は民族の姫野氏、第五号は吉崎昌一氏と学芸員を揃えての布石を自負していた。万事都合よく運ばれたことは、助役葛西民也氏に直屬して、私如き小心者の設計図は、まだ狭い、講堂がないと突き返えされて、次第に現存の宏壯な本館に近づいて行つたのである。只だ参らつたこと

は、昭和二五年の暮に前館の土台と一階外郭だけで爾後五年の据え置き中に、道立水産館への身売りに出された時は、優れた博物館建設委員の団結

によって、破談とした。本館の建設は一五年の才月という日本の記録を作つて、昭和四〇年一〇月完成。引越が出来

て、四一年四月二九日の落成式は東博出品の記念美術展等の手配も終り、あとは秋の全国大会と新館に光を求めた三月三十一日、勸奨退職制第一期

生で討死した。私は落成式の来賓の最後尾で目をつぶつていたのに、冷たいものが流れ放しだった。(昭和五〇年日本博物館協会受賞者)

## ビール博物館の歴史

先ず史料館を紹介の前に麦酒工場の歴史を繙いて見よう。現代随一の文化的飲料である麦酒が今から百年の昔当時蝦夷ヶ島と謂はれた北海道で生産された事は真に不思議の様に思はれる。其の間の事情を

よく調べて見ると深く先人の苦心が偲ばれて啓発される処が甚だ多く。抑々本道の開拓使制度は明治二年に始まり其後黒田清隆が長官となり一層本道の産業開発に始め其の成績は日を追ふて頗る顕著なものであった。当時本道に招聘された米人トーマ・アンチスセンは蝦夷の南方(岩内地方)に野生ホップを発見し北海道の地味氣候がホップ栽培に適する事を明治五年に建言し、又開拓使顧問ケブロンも之を献策してから当時既に麦酒事業に関心をもちたれん事が明らかに窺はれる。偶明治六年独逸にて麦酒造りを身に付けた中川清兵衛が明治八年独逸伯林のテイフホリー醸造所にて醸造技術を習得して帰国した彼を御用係雇に任命して愈々麦酒事業を開始する事に決定した。醸造所は最初に試験の爲東京に建てたる計画であったが北海道は氣候も醸造に適し且つ冷蔵も容易木材も豊富の処から最初より現地北海道に建てる方が得策であると当局に進言したのは係役人村橋久成で

あった。かくて明治九年現在の北二条東五丁目の第一工場敷地が其の發祥地で今年は創製百年の記念すべき年である。此の様にして明治九年総工費八、三四八円の子算で工事に着手し同年九月八日竣工し同月二三日午後一時に開拓使札幌麦酒醸造所の開業式が挙行され、麦とホップを製すればビールとゆう酒になる。と麦酒樽に白く書かれた写真が史料館に展示されている。之が実にサツポロビールの起源である。札幌の氣候風土が麦酒の醸造に適した関係もあって札幌冷製麦酒は全く醇良なものであったと記されている。然し創業早々の事であるから種々の苦心が払はれたのは言ふ迄もなく特に製氷機械(所謂冷凍機)の完備しない当時であり麦酒の保存には余程苦心された。開拓使の麦酒醸造所は明治一九年事業管理局から北海道庁の所管に移つたので開拓使が創設した事業もこの頃に至つて漸やくその成果が現はれ略前途の見込みもついたのでを民間に払下

げ一層の發達を計らうとする意見が起き終に明治一九年一月に麦酒醸造所は大倉組商會頭取大倉喜八郎に二六、六七二円で払下げられた。大倉組の経営は僅か一ヶ年にすぎなかつたが本道に於て官營醸造事業が民間の経営に移つた記念すべき時代である。明治二〇年一月に大倉喜八郎の所有から麦酒醸造所を譲受け創立發起人総代として渋沢栄一、浅野總一郎等により札幌麦酒会社設立された。創業以來設備の改善に全力を傾注すると共に独逸国ゲルマニヤ機械製作所から新式の機械を購入し一方独逸から招聘した醸造技師マックス・ホールマンによつて醸造法の改良を加へ麦酒の品質は著しく改善された。此の間に於て全国に麦酒会社も増へ麦酒販売競争が益々熾烈となり遂に明治三九年札幌麦酒株式会社と東京の日本麦酒株式会社、大阪の大阪麦酒株式会社の三社が合同となり大日本麦酒株式会社が生じた。其後戦後市場率七〇%以上となつたので集中排

除法の適要を受け分離となり、昭和二四年日本麦酒株式会社とアサヒビール株式会社が設立された。其後昭和三九年日本麦酒株式会社は商標の關係で社名をサツポロビール株式会社に変更し現在に至つてい

る。

史料館建物の歴史

此の堂々たる偉容を誇る赤煉瓦の建物はドイツのブランド輸入で道庁の赤煉瓦と並ぶ文化財的な建物である。明治二三年に竣工されビートの製糖工場であつたが経営不振となり明治三四年同社は解散して工場不用となり当時札幌麦酒株式会社は連年の拡張により北二条東五丁目の工場敷地が狭隘となり。明治三六年此の製糖工場を買受け(一万余千円)内部を改造して翌年製麦工場として稼働し、昭和四〇年の閉場する迄札幌工場の主力麦芽工場として六一年間稼働した。昭和四一年同じ構内に最良の環境に恵まれ最新の醸造技術と高度のオートメーション化した画期的な

ので徹底した集中管理方式を採用した道内唯一の総合麦酒工場の操業を機に此の歴史ある赤煉瓦の建物を工場參觀の方々の為に施設を整え、ビール史料館と新鮮な生ビールを楽しめるサツポロビール園も併設されている。

ビール史料館には麦酒創製百年の歴史を物語る数々の資料が開拓使麦酒醸造時代、大倉組時代、札幌麦酒時代、大日本麦酒時代の時代別に其他が展示されている。工場の敷地には百数年の風雪に耐えたエルムの巨木が明治の面影を偲んでいる。その一隅の庭園に一際鮮な赤レンガが目に着く、昨年の參觀者は三〇万人近く本年は八月二十五日既に三〇万人を超える人々で賑わっている。(參觀無料)

サツポロビール史料館

館長 酒田 定雄

昭和五一年八月三十一日記

北海道立青函トンネル記念館の紹介

当記念館は、今世紀最大の海底トンネル工事である青函トンネル工事の貴重な資料等を展示、公開する目的のため道が昭和四六年に渡島管内福島町三岳地区に総工費一億八千万円をもって着工、四七年に竣工し四八年一〇月一日に



開館しました。

津軽海峡の生いたちから青函トンネル完成までの諸資料を収集・展示・保存し津軽海峡をめぐる自然の歴史や先史時代からの人々の動きを振り返ると共に青函トンネル建設に係わる歴史的な経過と本道開発との関連を認識させ将来の展望及び青函トンネルの意義について理解を深めようとする目的で設置されたもので、建物は二つの円型ドームと平屋からなり、これは北海道側トンネル坑口と本州側トンネル坑口及びそれを継ぎ「青函トンネル」を象徴しております。

（入館者一〇万人 達成）  
当記念館では去る五月五日子供の日、待望の一〇万人目の入館者があり、当館館長でもある深山福島町長から記念品が贈られました。

当記念館は、世紀の大工事「青函トンネル」の建設を記念して、昭和四八年一〇月一日に開館したもので、入館者は、最初の年度は開館してすぐ冬期間に入ったため九八五九人と少なかったが、それ以降は、四九年度が四〇、八一〇人、五〇年度が四一、〇三五人と順調に伸び、ことし五月四日までに九九、四一九人と

五日は祝日の、え隣の松前町の花見を兼ねて立ち寄る観光客も多いとあって、五日中には必ず一〇万人をと期待。館長でもある深山町長も午前一〇時頃から来館して待ちわびていました。そして、午後二時過ぎからは、秒読みに入り、いよいよあと一人となつて当館職員が玄関前で待ち受ける中を団体客が到着。

この中で一番乗りをした空知管内上砂川町鶴、飲食店経営、岡村ハナさん（五一歳）が幸運の一〇万人目となり、深山町長から青函トンネル工事現場から採取した石「玄武岩」と、当記念館の全景を撮したカラーパネルが贈られました。

岡村さんは上砂川料飲店組合三四人の観光団の一員として、四、五両日の函館・松前観光旅行で来たもので、この日は松前町の花見掃り。玄関前で記念品を受けた岡村さんは仲間の祝福の中で、「本当に良い思い出になります」と喜んでいました。

北海道立青函トンネル記念館  
学芸員 山下 章

●特別展「やくもやき」について

八雲町公民館郷土室  
本年九月一日から五日まで、公民館郷土室のはじめての試みとして、特別展を開催します。今後、年に二・三度開催する予定で、今回のテーマは「やくもやき」です。  
「八雲焼」は明治末期に、現在の八雲町熱田地区で付近の粘土を主材料に焼かれた、やきもので、作品には日用雑器から、手びわりの個性豊かなものがあり、後者には「八雲」という押印があります。作者については、研究中ですが愛知県から来た郡花晚という人が中心になって、四・五名でやいていたと思われま

恵庭市に「文化財保護条例」誕生

恵庭市では、さる三月の定例市議会で、市文化財保護条例が制定されているが、恵庭市教育委員会の諮問機関として文化財保護行政に重要な役割を担う、恵庭市文化財保護

委員 ぶれが内定した。いよいよ今秋から市文化財指定の予備調査の作業に入るなど、四九年度に開設された、恵庭市郷土資料室（道博協加盟、スポーツセンター内）の今後の活躍など注目されている。

文化財保護委員内定者は次のとおり。

- 小松 重之（六四才） 歴史担当、公務員
- 原田 松太郎（五八才） 歴史担当、農業
- 山岸 實（五三才） 考古学担当、公務員
- 岡部 宏志（三〇才） 考古担当、会社員
- 小山 政弘（三二才） 動植物担当、教諭
- 小柳 勇（四二才） 学識経験者、公務員
- 山口 秀雄（七三才） 学識経験者、無職

同委員は今後夫々専門の立場から、(一)有形文化財、(二)無形文化財、(三)民俗資料、(四)記念物（貝塚、古墳など）の諸問題に対処する。

恵庭市内には天融寺所蔵の阿弥陀如来像が道の有形文化財に指定されており、市文化財指定による保全対策の強化が期待されている。

（恵庭市教育委員会の郷土資料室の塩原勇氏から送られた資料を事務局で集約したもの）

新会員の紹介

- 〔団体会員〕
  - 南茅部町教育委員会
  - 茅部郡南茅部町宇川汲一五二〇番地
  - 自然科学化石博物館
  - 虻田郡宇洞釜湖温泉町一番地
  - 稚内青少年科学館
  - 稚内市ノシャップ二丁目
- 〔個人会員〕
  - 山崎 博
  - 竹ヶ原 幸朗
  - 土田 博
  - 福岡 イト子
  - 山城 勝美
  - 江尻 真誠
- 退会
  - 〔団体会員〕
  - 帯広市青少年科学館

## 事務局だより

本協会では先の総会での承認により「創造的な社会教育の推進をあなたの手で」に賛同して、北海道社会教育連合会に五一年度より加入しましたが、同連合会主催の次の事業について参加方をお奨めします。

なお、詳細については本協会又は、北海道社会教育連合会「札幌市中央区北三条西七丁目道立社会福祉館内、電話(〇一一)二七一—五四五三」までお問い合わせ下さい。



## 昭和51年度北海道社会教育連合会事業概要

行 事 名	期 日	対 象	参 加 料 等	行 事 の 概 要
北海道生涯学習 ゼミナール	9/28-29 2日間 於札幌	会 員 社会教育関係者 企業内教育関係者 一般市民	会 員 2,000円 非会員 3,500円	○昭和51年度の社会教育活動を推進するための基本事項について、実務的観点から研修する。 講 演 課題別ゼミナール 全体協議
生涯学習 海外セミナー	10/中 10日間 イギリス フランス 西ドイツ	会 員 15名 非会員 15名	会 員 参加者負担32万円 連合会補助3万円 非会員 35万円	○図書館・博物館・美術館など社会教育施設の運営と活動について。 ○青少年教育および成人教育活動について等。
社会教育研究論文 実践記録募集	7/上 1/上	会 員 社会教育関係者	30編	○生涯教育の観点にたった社会教育推進の方策についてのテーマを設定し、それに基づく論文の募集 ○最優秀1編、優秀4編を選考委員により審査
社会教育資料 の発行	12/上	会 員 社会教育関係者		○社会教育活動を推進するため会員及び社会教育関係者に必要な資料を発刊する。 ○「PTAのしおり」「幼児教育のしおり」「社会教育必携」発刊予定
「北海道の社会教育を語る」 懇談会	9/下 於札幌	会 員 40名 社会教育行政 関係者 10名		○会員相互及び社会教育行政担当者との意見交換を通じて社会教育活動・行政活動推進上の連絡調整を図る ○年1回、次年度の社会教育活動推進に関する方策を主テーマにする。
社会教育関係図書 等のあっせん	6/上 3/下	会 員 社会教育関係者		○会員などに社会教育関係図書・資料・機材などをあっせんし社会教育活動の推進を図る。 ○社会教育関係専門書・月刊雑誌・他団体発行資料A.V.E関係機材
社会教育指導者養成 事業の共同実施				○社会教育有志指導者の積極的な発掘育成を推進し、その登録活動組織の整備、社会的認証を通じて効果的な社会教育ボランティア活動の振興を図る。
トリム運動の促進				○身心のバランスを回復するため、社会教育活動の中にトリム運動の考えを取入れ、道民の体力づくりに寄与する。
芸術文化の鑑賞促進				○芸術文化の鑑賞の場や機会についてのPRを行う。